

## 三陸鉄道リアス線の旅

清水 勝

先般、三陸鉄道リアス線の話が出て、大の鉄道ファンの方Nさんに旅の企画をお願いした。旅行会社顔負けの緻密な旅程表を作って頂き、併せてホテルの手配と「鉄道開業150年記念JR東日本パス」まで購入頂いた。

2011年の震災を乗り越え、三陸鉄道はどんな様子なのだろう。盛岡から山田線に二時間乗り宮古に到着。駅前のホテルに荷物を預け、タクシーで浄土ヶ浜に向かう。サツパ船から「青の洞窟」そして湾内一周。好天に恵まれ、鋭く上がった白い奇岩群が極楽浄土のごとく迎えてくれる。

宮古といえば新鮮な魚だ。夕食は一日目「蛇の目本店」、二日目は「魚彩亭すみよし」で、マダラの白子をはじめ生きのいい魚を頂く。二日目は三陸鉄道に乗り、岩泉小本駅から龍泉洞へ。鍾乳石の壁とブルーの地底湖を探訪する。雨模様だったが、やがて天気回復。

次なるは断崖絶壁の北山崎に向かう。途中の島越駅しまのこしは津波に呑み込まれて駅舎・プラットフォーム・線路が全て流失し、二〇一四年に復旧した。次の駅 田野原に着くと長尾さんが予約されていた観光タクシーがお出迎え、北山崎展望台へ。200mの断崖が連なる景観は海

のアルプスそのものだ。

その後は北の終点、久慈駅に着く。朝ドラ「あまちゃん」で有名になった小袖海岸を割引タクシーで巡る。

最終日は宮古から三陸鉄道の南の終点盛さか駅に。途中の恋し浜駅からの景色をカメラに収める。

車窓からは見える景色は、高い防波堤が城壁のごとく連なり、高台に再建された住まいは真新しく、田舎風の家は一軒もない。

こうして三陸鉄道リアス線163キロを乗り終えた。この後は気仙沼駅までBRT（バス輸送）に乗り、大船渡線で一ノ関に向かう。

一ノ関では「世嬉の一酒造」で見学と試飲。日本酒だけでなく特徴のあるクラフトビールも造られている。岩手県はホップの生産量が日本一で、十三の地ビールメーカーがあるという。

一ノ関から東京へ。皆さんお世話になりました！

